

大阪府中央卸売市場経営展望による取組み成果等の要約版

1. 基本戦略に基づく行動計画に関する評価

基本戦略に基づく行動計画に基づく取組み項目のうち、前回評価から評価を変更した項目は下記のとおりです。また、同計画の34項目のうち29項目（85.3%）において、一定の成果を上げていると評価しました。

【前回から評価を変更した項目】

1 流通の変化に対応した「機動性」のある市場	前回評価	今回評価	掲載箇所
(1) 荷捌き・積み込みスペースの充実	△	○	資料1(1頁)及び資料2(1頁)

(理由) 青果（近郊売場）の駐車場一部にテント設置工事（658 m²）及び照明設備を設置し、荷捌き・積み込みスペースが増加したことや近郊売場駐車場のスペースの整理を行い有効活用に努めたため。

2 ニーズに対応した「付加価値」を重視する市場	前回評価	今回評価	掲載箇所
(2) 加工施設や冷蔵庫の自主的整備	○	△	資料1(1頁)及び資料2(2頁)

(理由) 令和3年度から低（定）温化設備導入支援補助制度を創設し、場内事業者の整備を支援したことで自主的な整備が一定進んだものの、卸売場・仲卸売場全体の低温化までには至らなかったため。

2. 取扱高の状況について

府市場の取扱高は、全国の中央卸売市場と同様に人口減少や卸売市場経由率の低下などを背景として減少しており、取扱数量及び取扱金額ともに計画期間中の見込値を下回りました。

3. 施設整備の実施状況について

平成28年度に策定した「大阪府中央卸売市場中長期保全計画」に基づき、市場施設の保全及び市場機能を維持するために必要な工事を実施しました。

4. 収支計画の状況について

各維持使用料の減少等により収益が減少したものの、サービス水準を低下させることなく効率的な運営を行うことにより、各期の単年度損益は計画を上回る収支改善を達成しました。

5. 経営展望の取組みに対する総括評価

広域的な集荷・転送・分荷機能の強化や指定管理者による効率的な運営等を行ったことなどにより、一定の成果を上げることができました。

一方で、施設のコールドチェーン対応については、事業者の取組みやそれに対する支援を行い個別の取組みが一定進んだものの、施設全体としての整備は進められませんでした。太陽光発電などの自然エネルギーの活用などについては、構造上の問題や費用対効果の観点から実施を見送りました。今後、これらの課題等も含め、市場の機能強化については、市場建替え再整備の検討を進める中で、場内事業者をはじめ関係者と協議を重ねていきます。